

会議録

日時	令和4年1月18日(火)14:00~16:00
場所	総合文化センター 視聴覚室
件名	令和3年度 社会教育委員会臨時会
出席者	社会教育委員：小栗正敏、山田秀樹、安藤隆宏、酒井周文、安藤徳善、岩島留美子、小木曾恵美、 有賀秀雄、伊藤孝一、浅沼克郎（欠席：田口宏二） 市関係者：小栗茂（中央公民館長） 事務局：松井克仁（社会教育課課長補佐）、川畑篤仁（同主事）
議題	<p>1 あいさつ 代表 今回と次回の協議で提言書をまとめ、教育長はじめ校長会、教頭会、教育委員会定例会にて、2年間の成果を報告する。委員の皆さんの力を合わせて提言書をまとめていきたい。</p> <p>2 提言書(案)の内容確認 意見 提言書案の学校運営協議会に関する意見で「複数の小学校区からなる瑞浪南中学校区・瑞浪北中学校区では、推進員はじめ関係団体等の代表者が各地区代表として集まり協議会を組織するとよい。」とあるが、どういう意味か。 事務局 複数地区から関係団体等の代表者が皆さん集まると人数が多くなってしまふことから、例えば主任児童委員代表は土岐地区から出席、交通安全協会代表は日吉地区から出席していただいて会議の人数が多くなりすぎないようにして、出席した代表者が各地区へ伝達していただくという趣旨である。 意見 学校運営協議会の運営については、社会教育委員会では意見を述べることはできないので、地域学校協働活動本部と学校運営協議会を混同しないように記載の仕方に気を付ける必要がある。地域学校協働活動本部の構成員については広く関係者を入れてもいいと思うが、「学校の運営の都合上学校運営協議会では各関係団体の代表者を集めたほうがよいのではないか」というような書き方をしたほうがよい。 意見 脱字の訂正をお願いしたい。(提言書案 P.5 具体に向けて→具体化に向けて) 意見 提言書案での文章中の「廃校」の使用について確認願いたい。瑞浪北中学校統合の際は「閉校」を用いている。また、「子供」「子ども」の使い分けについて確認願いたい。 意見 提言書案での地区での推進役についての記述で、「推進役を担う人材は任期を3年以上とする等、継続性が担保できるようにするとよい。」とあるが、「3年以上」と年数を明記してよいかどうか。 意見 推進役を継続的に担うことを強調し、例示として「3年以上」と記載するか、「複数年」と記載するかのどちらかだろうか。 意見 「継続性が担保できるようにする」が主旨なので、「複数年」としたらどうか。「継続性が担保できるよう」という部分を文章の前半に持ってきたらどうか。 意見 地域の担い手があるかという実情を考えると、「3年」という年数はプレッシャーになる。 事務局 「複数年」とする。</p>

3 活動紹介

・日吉地区における地域と学校の連携・協働活動の取組について(安藤徳善委員)

・感想交流

安藤委員 日吉町を愛して、日吉町に残ってくれる、あるいは一度日吉町を離れてもいつか戻ってきてくれる子どもを一人でも多く育てたいと、日吉小学校にもご協力をいただいて活動を進めている。

日吉町が将来消滅しないために、コミュニティースクールは必要な活動だと考えている。

日吉町の子どもと大人にアンケートをとった。日吉のいいところは?と尋ねるとだれもが自然豊かでいいところだと答えてくれる。子どもたちに、将来日吉に住みたいかと尋ねると80%が住みたいと答えた一方で、保護者で、自分の子どもたちに日吉に残ってほしいと答えた方は7%しかいなかった。大変ショッキングであった。保護者の方にももっと日吉を大事に思ってもらえるような活動をコミュニティースクールで実施したいと考えている。新しい取り組みとして「日吉町挨拶運動」「子どもサミットの開催」「町民が入りやすい学校づくり」「下校時のバス待ち児童の見守り」を行う予定。またこれまでの取り組みについて「地域を担うこどもを育てる」という視点から工夫改善も行う。

意見 行政をあげて取り組みを広げていって、子どもたちが帰ってくるだけでなく、世界中から人が集まってくる地域になるとよいと思う。人の集まりの中で生きていく社会性を身に付けるという視点を持つとよいと思う。

意見 働く場所がなければ大人になっても地域に残ることができない。市で取り組むべきことだと思う。活動が発展して地域同士の交流や連携が生まれると市全体の活性化につながる。

意見 まさに「あるもの活かし」で、日吉町ならではの取り組みだと思う。公民館の中にまちづくり推進協議会の事務局があり、その中で安藤委員が公民館長として強かに活動を進める原動力となっている。安藤委員の企画力も大きい。地域の提案に学校が乗っていける「提案型」の活動になっている。地区独自の公民館を持たない明世・土岐・瑞浪地区が、どのようにして活動拠点を構築して活動を推進する人材を集めていくか、答えていかなければならない課題である。今回の発表にもあったように、青パトのような「学校ボランティア」の活動が突破口になるのではないかと。

意見 公民館に行けばいろいろなことが全部わかる、ということが強み。地区の活動にも住民の地元愛が根底にある。地域の持っている思いが学校に直接伝えられる体制になっている。修正点があれば改善することで、ステップアップできると考えている。

4 各会議等より報告

・社会教育振興協議会(有賀代表)

コロナ禍で zoom での会議、研修がほとんどであった。来年度も同じような形になるのではと考えている。来年度の計画についてはこれから協議予定である。

・青少年育成市民会議(浅沼委員)

4/28 に専門部会にて広報担当として出席した。8/6 に広報の第 17 号の編集会議を行った。1/28 の専門部会は中止、2/13 の総会は書面開催となった。

・美術展運営懇談会(酒井委員)

美術展の開催にあたり、3回の会議と、展示作業に参加した。コロナ禍ということもあり出展数は減少している。瑞浪市民と高校生の出展数が少ないとのこと。また総合文化センターの工事に伴い、次年度の美術展の開催時期や場所について5月頃に協議する予定。

意見 以前代理出席した際にも、出展数の減少が反省として挙がっていた。コミュニティースクールの活動を進める中で、例えば書道の指導をできる方と学校とが関わる場面作りをすることで、将来的な出展数の増加に繋がるのではないかと考えている。

・図書館協議会(小木曾委員)

6月の協議会は書面開催となった。コロナ禍で、住民が安全安心に利用できる対策がとられているとの評価が多かった。図書館の移転を含む公共施設再編計画については「なぜ移転先が駅北地区なのか」、「図書館の面積が小さくなれば蔵書数も減ってしまうのではないか」、「もっと幅広く意見を求めるべきではないか」、「図書館が中核となって未来の子どもたちに渡せるまちづくりというコンセプトを達成できるといいのではないか」、「ニーズを把握して、市民目線に立った施設を希望する」など様々な意見がみられた。来年度50周年事業の講演会を予定している。図書館のボランティアもなかなか集まらないとのことであった。学校教育でタブレット学習が本格化する中で、本で調べて自分で考えるという企画を図書館で検討してほしいという意見もあった。

・教育委員会点検評価委員会(伊藤委員)

瑞浪市教育基本計画の後期目標に従って点検評価を行った。教育相談コーディネーターと教育支援センターとの連携が課題として挙げられた。令和2年度の評価がまとまったのが10月頃なので令和3年度の事業にはほとんど活かさない。次年度の事業に活かすためにもう少し早いスケジュールになるといいのになど個人的に思っている。

・人権施策推進ネットワーク(岩島委員)

第2次瑞浪市人権施策推進指針の策定にあたり市民の意見を募っていたが1件のみであった。5月に人権に関する講演に参加した。会議については書面開催がほとんどであった。

5 今後の予定

・第7回 2月17日(木)…提言書の最終確認、次年度の計画案

・提言書の報告について

2月25日(金)10:00 教育長へ報告

3月 2日(水)13:30 校長会にて説明

3月 8日(火)15:00 教頭会にて説明

3月24日(木) 教育委員会定例会にて提言書提出

6 事務局より

(1) 各種研修会

①先進校(妻木小・西陵中)視察(1/21)…中止

②地域学校協働活動推進員フォローアップ研修(1/27)

③岐阜県地域学校協働活動フォーラム2021(2/15)

(2) 配付物等紹介

(3) 次期研究テーマ選定に向けて…次回協議

意見 社会教育委員会の活動について市広報を活用して周知できないか事務局で検討願いたい。